

東日本大震災におけるLPガス関連設備の被災及び対応状況

「絆」発刊にあたって

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、LPガス施設をはじめ高圧ガス施設に対し未曾有の大打撃を与え、多くの事業所が地震と津波により甚大な被害を受けました。

また、同時に発生した、東京電力福島第1原子力発電所の事故による、放射性物質拡散の影響を受けた立ち入り禁止地域では、1年以上経過した現在においても、いまだに被災状況を正確につかめないLPガス施設等が、50箇所以上存在しております。

このような中であって、この一年間、我が国では、東日本大震災でのLPガス施設の被害状況を分析し、高圧ガス保安法に基づき施設の強化が検討されるなど、如何に被害を軽減することが出来るかが問題提起され、平成24年度より具体的な検討が進められております。

一方、この度の震災によるLPガス施設の被災状況を確認すべく、当協会理事の方々が、自らの身の危険をも顧みず、いち早く現地調査に入り、大変な苦勞の末、被災状況等の写真撮影やデータを集めてこられました。

これらの資料は、今後の天災発生時におけるLPガスプラントの保守や安全に対する有益なデータになると思われまふ。集められた写真やデータは、一般の新聞には載らない貴重な資料ばかりであり、これらを後世に残すことは、日本エルピーガスプラント協会にとって大変重要な使命であるという認識のもとに、当協会理事会において、LPガス施設の地震・津波への対応策等の提言としてまとめた記録集「絆」を発刊することに決定致しました。

本冊子は、後世の人々に、今回の災害の悲惨さを何時までも鮮明に記録に留めて頂くことを目的とし、近い将来、必ず発生すると言われている、東海、東南海及び南海地震の大災害、更には、現在においては発生が想定されていない地域での大地震による被害を、最小限に食い止めるための防災の指針として、末永く活用して頂くことを望んでやみません。

平成24年7月

一般社団法人 日本エルピーガスプラント協会
会 長 石井 宏治